

京大探偵団

アンダーザマシーン Under the Machine

じはんきのしたに

ある日の夜だった。世間では花見やらゴールデンウィークやらと、何とも華やかなものだが、僕の財布は非常に寒い。きのう徹夜の麻雀で大負けしたんだよなあ。しかも、ものすごく眠い。おかげで明日までの調査報告書仕上がらないし。いかん眠りそう…。コーヒーを買ってこよう。僕は事務所の外の自販機に走った。自販機に100円玉を入れようとしたそのとき、事件は起こった。

「チャリーン」

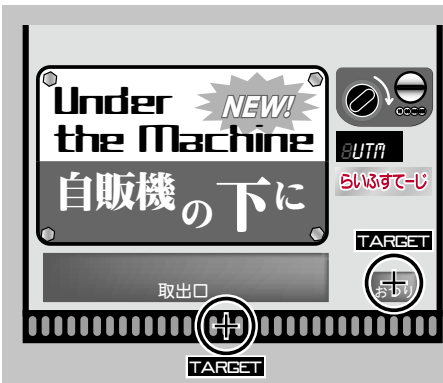
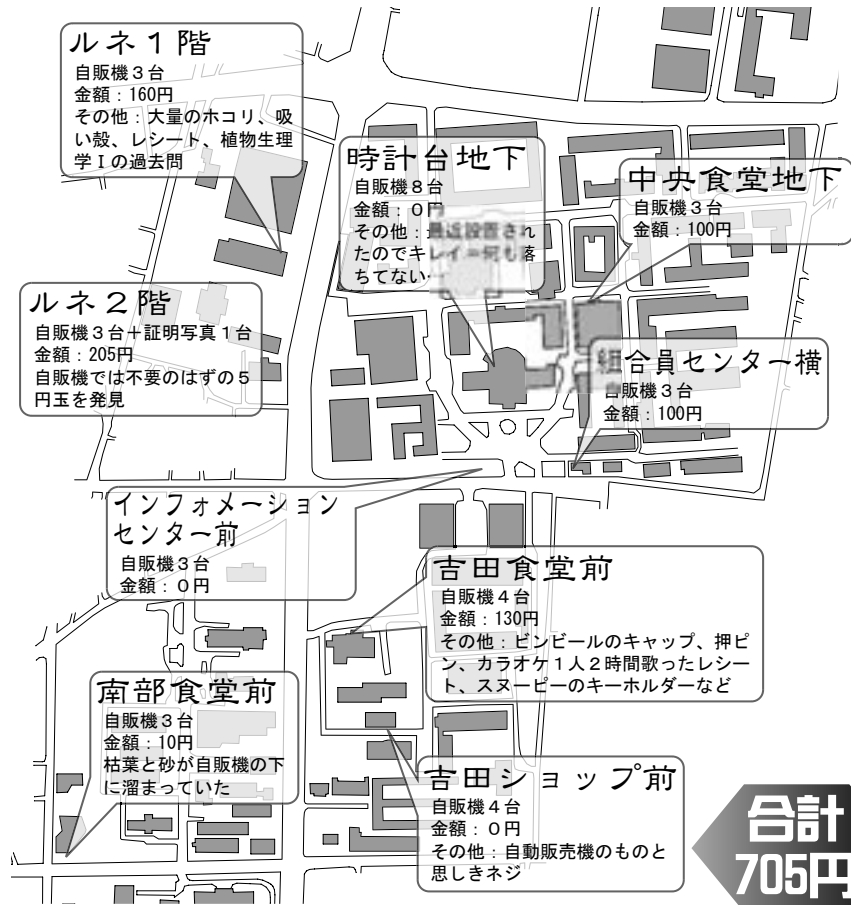
落とした硬貨が自販機の下に入ってしまった。僕はあわてて近くの木の枝で取り出そうとした。そして100円玉を見つけた。しかし…

「ちがう！ これは僕の落とした平成16年の100円玉じゃない！」

さらに自販機の下を捜索する探偵。数分後、大量のホコリと自分のものではない硬貨数枚とともに僕の落とした100円玉を発見した。そのときふとひらめいた。

「もしかすると京大中の自販機の下を調べると、もっとお金が落ちているかもしれない」

そうつぶやいて、僕は自販機の下をめがけて夜の闇に消えていった。



● 調査方法

大学内に設置されている屋外の自動販売機下の隙間とおとり返却口にあるお金を調査。自動販売機の下に落ちているものについてはお金以外のものも調査。(左図参照)

(調査は2004年3月に実施)

翌朝、探偵事務所で眠っていた僕は所長の声で起こされた。

「あ、おはようございます」

「おはよう。今日までの報告書は？」

「あ…、ちょっと急な調査が…」

「それから、この机の上のお金は何？」

昨夜のことを説明すると、所長から叱られてしまった。集めたお金は交番に届けられ、残業代もカットされてしまい、財布の中はいよいよ凍えてきそうだ。

(A-K)

はみだし
すてーじ

「らいふすてーじ号」(ワゴン車)を発見した！ …という夢を見た
⇒実はコープ号(生協のワゴン車)に一台混じってるんですよ。

(職 はゆか)
(だったらおもしろいのになあ；編)